

令和6年度 延岡市立島野浦学園 学校評価書

教育目標「ふるさとを誇り 自他の幸福を築きながら 時代をたくましく生き抜く人材の育成」				4段階評価 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する						
評価項目	重点目標	方策・手立て	具体策・数値目標	アンケート		学校の自己評価		学校運営協議会		
				児童・保護 生徒・者	教師	成果と課題	評価	評価	所 見	
命を大切に 豊かな心の育成	1 自己肯定感を育む 教育の充実	ア 自信をもたせる指導の工夫 イ 一人一人の挑戦目標(課題)の設定 ウ 認め合う・高め合う人間関係の醸成 エ リーダーの育成	○ 成功体験をさせるために、児童生徒1人1人に様々な場面で役割を与え、活動を行わせる。 ○ 児童生徒会活動や清掃活動、特別活動、昼休み時間等を通じて異学年と交流し、互いの意見を尊重し合える場面を設定する。 ○ 後期課程生徒が前期課程児童をリードできるように、様々な活動等において魅力ある(憧れる)姿を見せられるような指導を行う。	84 %	94 %	91 %	3	3	○ 儀式的行事において児童生徒全員に役割を与え、人前に立って話す経験をさせることができた。 ○ 全員で準備・片付けをする際に、後期課程生徒の指示のもと作業をする様子が見られるようになってきた。 ○ 委員会活動等で児童生徒一人一人が貢献できた。 ○ 委員会活動等で後期課程が前期課程をリードする姿が見られた。前期課程と後期課程の児童生徒が協力して活動する様子が様々な場面でみられた。 ● リーダーを育成するために、ミドルステージの児童が活躍できる機会を増やす必要がある。 ● 認め合う・高めあう人間関係の醸成の場の設定が必要である。	○ 娘達の頃に、南浦地区合同運動会が開かれていた。一年ごと、持ち回りで行われていた。体調管理が心配だったら、学習発表会等はどうか。各地区の子どもたちがリーダーシップをとる姿が微笑ましかったりしたのを思い出した。 ○ 人数が少ない分、行事において人前で話す経験を今後とも実施し、能力を高めてもらいたい。 ○ 人数が少ない分、一人一人の発表が多く、児童生徒は大変だと思うが、人前で話をしたり発表したりする経験を多く積むことで、自信につながっていると思う。年々、しっかりとした発表ができるようになっていく。
	2 豊かな道徳性と 人権感覚の育成	ア 道徳科の授業の充実 イ いじめゼロの学校づくり ウ インクルーシブ教育の充実	○ 「特別の教科 道徳」「特別支援教育」の職員研修を年1回実施する。 ○ 月1回の校内生活(なやみ)アンケートと学期1回の教育相談を実施する。 ○ 毎週(金)に児童生徒理解の時間を設定し、第4週には、いじめ不登校対策委員会を実施する。						○ 「いのち」をテーマとした道徳の授業を全校一斉に実施することができた。 ○ 悩みアンケート(月1回)と教育相談(年3回)は計画通り実施することができた。 ○ 児童生徒理解の時間を確実に確保し、共通理解を図ることができた。 ● 人数が少なく、様々な価値観に触れる機会が少ない。発達段階に応じて、合同道徳などを実施する必要がある。	○ あいさつだが、朝は「おはよう」で決まりなのだが、学校の帰りに会うと「お帰りなさい」と言っていてしまっている。子どもたちは戸惑った顔をする。家族ではないのに、と思うのか。やはり「こんにちは」の方が返しやすいのか。 ○ あいさつは去年に比べると声も大きくなってきたと思う。自分からあいさつする児童生徒は少ないが、これから少しでも身についていくとよいと思う。
	3 基本的な生活習慣 の育成	ア 心からの「あいさつ」[返事] イ 無言清掃の徹底とボランティア活動の推進 ウ 時間厳守の意識付け	○ 年2回のあいさつ運動を実施する。 ○ 無言清掃の意識を高めるために、清掃反省会を実施する。 ○ チャイム黙想を行い、授業を開始する。(委員会とのタイアップ)						○ あいさつについては、生活美化委員会の「あいさつ MVP」の取組で、全校児童生徒がよりよいあいさつをしようとする態度が見られるようになった。 ○ 清掃反省会を実施し、無言清掃に取り組むことができた。 ● 「学校外であいさつをしない」「声が小さい」という声があるので、あいさつの仕方を身に付けさせる必要がある。 ● 委員会活動などを通して、学校生活や地域に貢献することの大切さを感じさせることで、自主性を育て、ボランティア精神を培っていく必要がある。 ● 先を見通し、時間を守って行動する習慣が身に付いていない児童生徒がいるため、今後も指導を継続していく必要がある。	○ あいさつはよくできていた。 ○ 子どもたちが地域の活動に参加していてよかった。 ○ 9年生の作った島浦の写真集が非常によかった。 ○ 島浦学がとても素晴らしいと思う。地域の人たちも、児童生徒とふれあえる時間を楽しみにしていると思う。 ○ 上級生が下級生と共に下校している光景よく見られて、学校全体が1つになっているのが伝わってよかった。
	4 非認知能力の育成	ア 目標に向かって頑張る力の育成(自己力) イ 人とうまく関わる力(社会性) ウ 感情のコントロール力の育成	○ 委員会活動での目標を年間計画に立て、活動について振り返る時間を設ける。 ○ 昼休み時間を利用した、全校での遊びや活動を実施する。 ○ 島浦学を通して、様々な情報を収集するために、取材やインタビューを行う。						○ 委員会活動において、活動後のふりかえりアンケートを実施し、その結果をもとに担当ごとに反省し、その後の活動に生かす流れを作ることができた。 ○ 保体給食委員会の企画・運営で、昼休み時間に全校で遊ぶ活動を行ったことで、お互いの仲を深めることができた。 ○ 島浦学や各教科での様々な体験活動の中で、地域の方々と触れ合うことを通して、コミュニケーション能力を高めることができた。	
楽しく学ぶ (確かな学力)	1 課題を明確にした 授業改善	ア 各種調査結果等の分析 イ 「わかる」「できる」ための授業改善 ウ 相互参観授業の実施 エ チェックポイントを意識した授業づくり	○ 各種調査結果の分析を共通理解し、授業改善に生かす。 ○ 授業中の習熟時間を確保し、個々の課題に応じた個別指導の実施を目指す。 ○ 相互参観週間を設定し、少人数指導のよさを生かした授業についての研修を進める。	72 %	72 %	73 %	3	3	○ ひなたの授業の視点を生かし、相互授業参観週間を設定したり、複式授業を参観したりし、主題研として全職員で研修を進めることができた。	
	2 ICT等を活用した 授業の創造	ア 主体的・対話的に深い学びの場の設定 イ 個別最適化学習等の充実 ウ 交流学習の充実や遠隔授業への挑戦	○ 効果的な活用方法を模索する。 ○ 発表や習熟、調べ学習、対話的な学習、キュビナ等を積極的に活用する。 ○ 他校との交流や遠隔授業の推進(年2回以上の実施を目指す。) ○ 情報教育研修の充実を図る。(年5回以上の研修を行う。)						○ 他校とオンラインでつなぎ、キャリア教育の講話を聞いたり、国語の話し合いの授業を行ったりなどICTを活用した学習を推進することができた。 ○ 調べ学習では、図書室の利用やタブレット端末を活用し、調べた内容をロイノートでまとめ発表することができた。 ● 情報教育研修を行うことはできたが回数が十分ではなかった。また、キュビナを積極的に使うことができていない。	
	3 自立した学習者の 育成	ア 学ぶ楽しさをもたせる工夫 イ 陰山メソッドの充実(朝の活動の充実) ウ 読書(家読)の充実 エ 家庭学習の充実	○ 朝の活動「島っ子タイム」における補充学習及び読書の実施(前期課程) ○ 読書の推進と習熟時間の確保(後期課程) ○ 年2回の家読と年1回の読み聞かせの実施。 ○ 「家庭学習のポイント」の配付。自学ノートの展示の実施。						○ 図書館祭りや20分間全読書などを実施したことで、目標貸出し冊数の800冊を達成することができた。児童生徒の図書館への出入りが増えた。 ○ 定期テスト前日、テスト範囲を周知し児童生徒が計画的に勉強することができた。 ● 本を借りる児童生徒は増えたが、全員の読書量が増えたわけではないため、全員が読書量を増やす手立てを考える必要がある。	

命を守る (健やかな体の育成)	1 安全教育の充実	ア 危機予測・回避能力の育成 イ 防災教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 月に1度の安全点検を確実に実施し、年1回の交通安全教室を実施する。 防災意識を高めるために、年度始めの避難経路確認と年3回の避難訓練を実施する。 	79 %	83 %	78 %	<ul style="list-style-type: none"> 各担当が計画どおりに安全点検をおこなった。 交通安全協会に講師を依頼し保育園児と共に実践的な交通安全教室が開催できた。 外部関係機関とも連携して避難訓練を実施できた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 来年度の1学期は新入生もいるので、立番をしようかと思ってい るが、いかがか。 交通安全教室では保育園児も参加させていただきありがたかつ た。緊張したようだったが、普段できないよい経験をさせてあげら れた。 火災避難訓練では、子どもたちの真剣に取り組む姿が見えてよ かった。 離島という環境で避難訓練は非常に重要だと思う。 治療率100%は素晴らしい。
	2 規則正しい生活リズムの定着	ア 早寝・早起き・しつかり朝ごはん イ 家庭と連携したメディアコントロール力の育成 ウ 感染症への対応	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の健康観察の徹底を図り、早寝・早起き・朝ごはんの状況を確認する。 年2回のメディアコントロールを実施する。 給食前の手洗い・消毒を徹底する。 				<ul style="list-style-type: none"> 学校保健委員会では、11月情報モラル教室と12月睡眠に関する講話を実施した。早寝・早起き・朝ごはんやメディアコントロールについては、さらに家庭と連携し、次年度も継続指導が必要である。 給食時間や長期休業前に、感染症の予防行動を促す保健指導を行った。 給食時の感染症対策として、児童生徒の欠席や出席停止状況に応じて手洗い、手指消毒、静かに食べる等の対策をとった。 		
	3 体力向上に努める児童生徒の育成	ア 健康診断後の治療率の向上 イ 体力向上プランの確実な実践	<ul style="list-style-type: none"> 健診ごとに保護者へ啓発し、治療率100%を達成する。 体力テスト判定A判定を1名増及びD・E評価ゼロを目指す。 				<ul style="list-style-type: none"> 治療のすすめやほけんだよりを発行して家庭に治療状況を周知したり、学級担任と協力して治療状況を確認したりすることで児童生徒の健康状況を把握した。【むし歯治療率100%、視力検査後の治療率100%】 スポーツテストの結果、握力の伸びは見られたものの持久力に落ち込みが見られた。またDE判定の児童もいたため、対策が必要である。 体力向上として、なわとび運動強化月間を2月に計画している。 		
	4 健康教育の充実	ア 食育 イ 健康教育	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭や養護教諭との連携授業を年1回実施する。 				<ul style="list-style-type: none"> 箸の使い方やむし歯になりにくいおやつを食べ方、食べ物の仲間分け等について食に関する授業を行った。全校児童生徒で取り組む弁当の日を3月に計画している。 【性に関する教育】7月、11～12月を性教育月間とし、児童生徒の発達段階に応じて職員と連携して実施することができた。 		
地域連携	1 新教科「島浦学」の充実	ア 体験活動の実施 イ 探究活動の構築 ウ キャリア教育との関連	<ul style="list-style-type: none"> 年間2回以上の島の「ひと・もの・こと」を生かした体験活動を実施する。 体験活動前後の探究活動の充実を図る。 キャリアパスポートの活用を図る。 	99 %	100 %	100 %	<ul style="list-style-type: none"> 島に新設されたNPO法人との協働活動、大祭における獅子舞や表現活動、家庭教育学級と連携した調理教室などの様々な体験活動を実施することができた。 活動後、学びを深める学習につなげられなかった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 島浦町の行事にも積極的に参加し、準備や片付けもみんなで行い、協力的でとてもよいと思った。これからも、少ない人数なりに島全体で協力していけたらよいと思う。 祭りのステージをさらに充実させたいので、もっと多くの子どもたちに参加してほしい(先生達もぜひ)。 NPOの活動に関わったが、生徒も協働する姿は感動的である。地域課題解決に向けた組織や活動がとても身近にあるので、その熱意はもちろんのこと、経済学や多職種の連携など、さらに深く感じてもらえるとよいと思う。社会に出たときに生きる経験になると思う。
	2 学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の充実		<ul style="list-style-type: none"> 長期休業中にコミスクへの理解を深めるための職員研修を実施する。 学校と地域で目標やビジョンを共有するための熟議を設定する。 				<ul style="list-style-type: none"> 職員研修や全職員参加の学校運営協議会を実施することができた。 学校と地域、保護者・児童生徒とで熟議をする段階まで進めなかった。 		